

## 『地域の方のお陰です!』

◇1月24日朝の登校風景です。朝から雪が降り続き、道路・歩道の端が白くなっているのは今年度初です。「今季最強寒波」「記録的大雪」「警報級大雪」という報道が飛び、実際、多くの影響が出ました。積雪による、名神高速関ヶ原IC付近の5キロ超の立ち往生は、その最たるものだと言えます。

積雪の量は全く違いますが、朝、歩道に立っていて感じたこと。その一番は風の冷たさです。風は強さを増し、雪も横降りになり、傘を持つ手には力が必要でした。

そんな中でも、生徒たちの登校には元気があります。挨拶の声、横断歩道を渡るために止まってくださった運転手に対する丁寧な黙礼など、普段と変わらない姿です。

そんな姿を示すことができている理由を1つ発見しました。それは、地域の方の地域のこと、小中学生のことを考えた姿があるからです。

まだ登校する生徒が少ない中、遠くから青いバケツを持った方が段々と近づいて来ます。遠目から見ると、不思議な動きをしているから何だろうと注視していると、それは雪で白くなっている路面や横断歩道に融雪剤を撒かれていたのです。(大きなペットボトルをカットしたものに、バケツから少しずつ融雪剤を入れながら。)

「ありがとうございます。とても助かります。」と発すると、「今日はこれで2回目やで。これだけ降ると厳しいなあ。」と返ってきました。「これで2回目…」って、1回目は何時に撒かれたのだろう、どこの方で、どうしてやってくださっているのだろうとわき出る疑問を聞きたかったのですが、野暮ったく感じて聞けませんでした。

しかし、確かに言えること。それは、こうした地域の方のサポートに助けられて、無事に登下校することができているのです。日頃から感謝の気持ちは持ち続け、姿で示したいものです。

本当に有難うございます。

